資料編

コアティーチャーを柱とした若手教職員の育成について

令和２年 10 月 21 日
館林市立第十小学校

１　はじめに

本校の県費負担教職員は 36 名（10 月 21 日現在、非常勤講師、スクールカウンセラー、スクールサポートスタッフを除く）である。年齢構成は、20 代：９名、30 代：７名、40 代：６名、50 代：11 名、60 代：３名であり、比較的バランスのとれた構成といえる。

令和２年度、教員の資質能力の向上を図るために校内の中核となる教員(コアティーチャー)を配置していただいた。もちろん、これまでも、校内研修に指導力向上を目指した研修を位置づけ取り組んできたが､教職員の資質向上に専念できる教員を配置していただいたことにより、これまで以上に、様々な視点からの取組を行うことが可能になった。

以下、これまでの取組の概要を報告する。

２　取組の概要

(1)メンター研修チーム発足

〇若手教職員をメンティー、中堅をメンター、教務主任・研修主任・学力向上コーディネーター・コアティーチャーをコーディネーター、ベテランをアドバイザーとしてチームを発足させた。

〇教職員も分散勤務となったことから、Ａ・Ｂ・Ｃ班それぞれを一つのチームとした。

〇取組として、①メンター研修、②ＯＪＴ研修、③コアティーチャーによる授業参観や情報交換会などを行っていくことを確認する。

※詳しくは、「十小コア通信　ＴＲＹ　№1」参照

(2)アンケート調査実施

〇メンティーへのアンケート

・アンケート調査を実施してみると、教科指導に係る内容が多いが、「プログラミングに係ること」や「ＩＣＴの活用法」、「学びのユニバーサルデザイン」などについて自身を磨きたいといった内容が見られた。

〇学校再開に向けて休業中にやっておくとよいこと、やっておくべきことについて

・全教職員向けの調査で、これまでの経験を踏まえた内容が出された。

※詳しくは、「十小コア通信　ＴＲＹ　№3」参照

(3)取組の実際

①メンター研修、ＯＪＴ研修

〇5 月 27 日(水)

ＯＪＴ研修：「個別の指導計画の書き方」
講師：柿沼特別支援教育コーディネーター

メンター研修：「顔合わせ＆情報交換」
講師：村田コアティーチャー

〇6 月５日(金)

ＯＪＴ研修：道徳科「授業づくりシートの活用を通して」
講師：村田コアティーチャー

〇6 月５日(金)・８日(月)・９日（火）

ＯＪＴ研修：「心肺蘇生法」
講師：中澤養護教諭、坂上体育主任

○6月19日(金)
メンター研修：「子どもとの関わり方」
講師：村田コアティーチャー、廣木アドバイザー、髙橋コーディネーター、長谷川コーディネーター
○7月16日(木)
ＯＪＴ研修：「ＳＯＳの出し方教育」
講師：丸岡教諭
○7月22日(水)
ＯＪＴ研修：「通知表　所見の書き方」
講師：懸川教諭（初任研拠点校指導教員）
○7月31日(金)
メンター研修：「地域資源の活用」
講師：村田コアティーチャー、田野入コミュニティ・スクールコーディネーター
○8月19日(水)
ＯＪＴ研修：「アレルギー児童への対応」
講師：中澤養護教諭
○9月３日(木)
メンター研修：「不適応児童への対応の仕方」
講師：中村スクールカウンセラー、小野寺教育相談主任

②個別の研修
○6月１日(月)
難聴児童への対応について（担任とコアティーチャーによる）
○日ごろ、授業参観を行い、放課後等の時間を活用して授業者との会話を大切にしながら指導・助言を行っている。

３　これから
(１)見えてきたこと
①教職員の姿
○そもそも本校の教職員は真面目であり、自身の資質能力向上に意欲的である。コアティーチャーから「対象は・・・・ですよ」などと連絡があっても、対象外の教職員も積極的に研修に取り組んでいる。そのことが若手教職員への刺激になるとともに、中堅・ベテラン教職員への意識向上にもつながっている。相乗効果が生まれている。
②コアティーチャーとして
○中堅であり、これから学年主任等として活躍を願いたい教諭を位置づけた。学校全体を俯瞰し、自身のこれまでの取組を振り返り、強みと弱みを見極め、さらに資質能力の向上に努めている。
(２)これから
○１年間の折り返し地点を過ぎ、自己申告書の中間報告を求めている。若手教職員には、今後の面談を通して、あらためて自身の資質能力を見直す機会としたい。
○面談を通して見えてきたことを、コアティーチャーに情報提供し、これからの取組に取り入れるよう助言したい。
○コアティーチャーには、引き続き、内容と対象を絞って、短い時間で効率のよい研修を進めるよう助言し、教職員の資質能力の向上に寄与するよう指導していきたい。

令和２年度

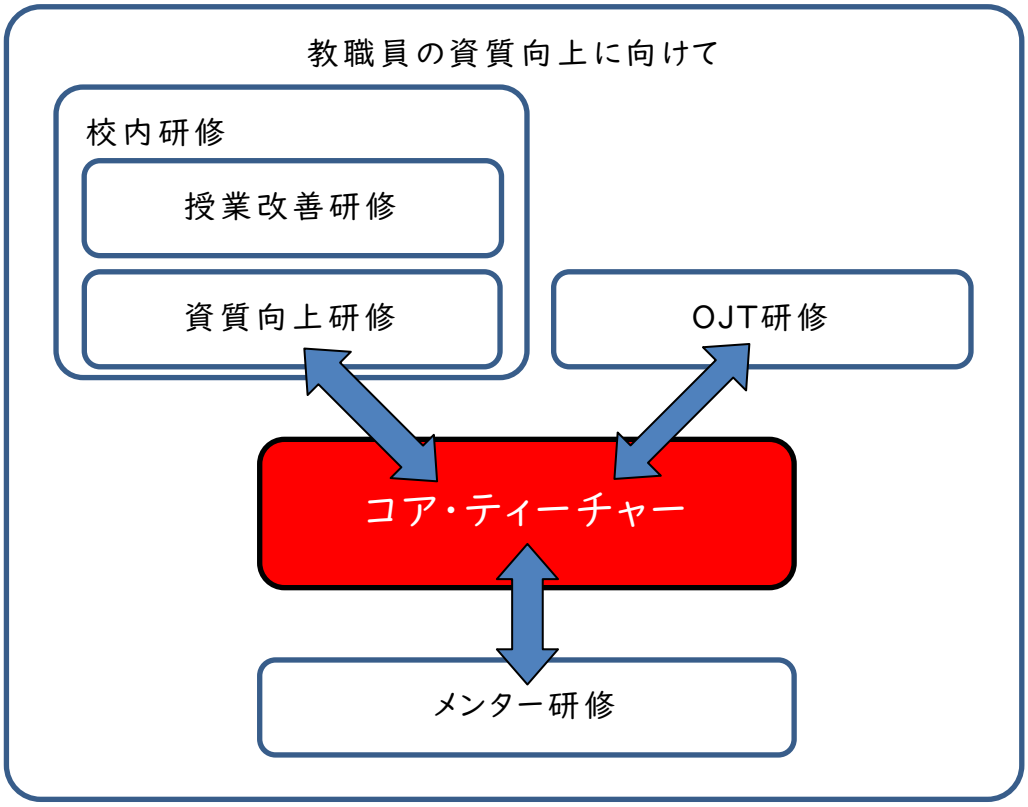
館林市立第十小学校

コア・ティーチャーの役割

◆コア･ティーチャーは、人と人とをつなぎ、ともに高め合う集団に向けて、教職員の資質向上における研修のコーディネーターの役割を担っている。

◆全教職員を対象に、学びたい研修、必要な研修内容について、アンケートを実施した。研修内容や講師、研修対象者を吟味し、教職員にとって必要感のある研修を常に考え、研修の場を設定している。

◆コア・ティーチャーは、定期的に「コア通信『ＴＲＹ』」を発行したり、研修ごとに研修内容をまとめたりしている。若手教員に対しては、研修の振り返りをさせるために、所感も提出させている。このように、教職員にとって、身のある研修を今後も展開したい。



R2.5.27（10:30～11:10）17名

＜研修①＞　ＯＪＴ研修「個別の支援計画・指導計画の書き方」

キャリア段階	【Ｉ】児童生徒理解
ねらい	◆個別の指導計画作成の意義を理解するとともに、有効的に活用できる指導計画の書き方について学ぶ。
概要	◆講師：柿沼 香織　教諭【特別支援コーディネーター】 ①個別の支援計画・指導計画の作成についての説明 ②実際の個別の指導計画を用いて書き方の説明 ③質疑応答
成果	○今までは作ったまま活用しない指導計画であったが、本研修を行ったことにより、若手の教員が、個別の指導計画の作成の意義を知るだけでなく、実際に作成する際のポイントや注意点について知る機会を設けることができた。 ○本研修をきっかけに、より有効活用するために、個別の指導計画の形式の見直しを行うことができた。 ○具体的な事例を挙げて説明をしたり、実際の個別の指導計画の形式を元に説明をしたりしたことにより、経験の少ない若手教員は、作成に当たっての大きなヒントを得ていた。 ○学校が再開したときに、支援を要する児童を意識した上で指導に当たることができるようになった。
課題	△ひとまず説明を一方的に行ったのみ。６月に入り作成の時期になったら、個別に相談に乗りながら、作成をしていくことが大切。
取組の様子	◆Ｐ．Ｐを用いながら分かりやすく解説 ◆実際に身体を動かしながら、個別の支援について考える

R2.6.5（14:30～15:15）16名

＜研修②＞　ＯＪＴ研修「道徳授業づくりシートの活用」

キャリア段階	【Ｉ】組織の一員としての自覚
ねらい	◆昨年度までの研修内容を全職員で共通理解し、今年度の校内研修に生かす。
概要	◆講師：村田 久美　教諭【Ｒ１年度 道徳推進教師】 ①昨年度の研修内容の確認 ②道徳授業づくりシートの活用の仕方の説明
成果	○今年度本校に来た先生方に、昨年度の校内研修の内容を伝達することで、共通理解のもと、本年度の授業改善研修に取り組むことができるようになった。 ○若い先生方にとっては、「特別の教科　道徳」の授業づくりの基礎・基本となる部分を確認する場となった。 ○他校から来た先生方の意見を聞くことにより、本校に足りなかった部分を確認できたり、他の視点からの意見を聞くことができたりした。
課題	△前回同様、Ｐ．Ｐでの一方的な研修になりがちである。ソーシャルディスタンスのという制限の中での、主体的な研修の持ち方について検討の必要がある。 △授業づくりシートの継続的な活用、学年間、次年度へのデータの共有。
取組の様子	◆Ｐ．Ｐと実際の「道徳授業づくりシート」を用いながら、昨年度の研修内容の確認 ◆全員で共通理解を図った「道徳授業づくりシート」

道徳授業づくりシート

2020年11月6日（金）第2校時

第20回
主題名　ゆうきをだして
教材名　やめろよ

本時の評価
・正しいことが「できたとき」と「できなかったとき」の気持ちを比較する活動を通して、正しいことができたときのすがすがしさや気持ちよさに気づき、自分は、毎日の生活の中で、どのようなことができるのかを考えることができる。

学習活動	時間	指導上の留意点
1．正しいことができたときできなかったときのことについて考える。 ○このような場面を見たり、やってしまったりしたことはないですか？こんなときどうしたらよいですか？（板下・ボード）	5分	・身近な例の写真を見せて、子どもがイメージしやすいようにする。
2．「やめろよ」を読んで、内容を確認する。 ○だれがどんなことをしましたか。（こんきち・ぼんた） ○なぜ、ぼんたは通り過ぎようとしたのですか。 ・こんきちが怖いから／こぶんもやられるかもしれないから／自分がやらなくても…）	10分	・正しいことを行うことの難しさに気づくことができるよう、通り過ぎようとしたぼんたの気持ちを考えさせる。【人間理解】
○自分がぼんただったらどうしますか。		・組織発問をすることで、みんなの考えを共有の利益にしつけることもあることに気付けるようにする。 ・心情メーターで、自分の気持ちを表すことで、一人ひとりが意識して考え、またんによってできる気持ちの動きにも気があることに気付けるようにする。【他者理解】
3．正しいことができたときできなかったときの気持ちを比べる。 ◎「やめろよ」と言えたときと言えなかったとき、それぞれどんな気持ちになりますか。 言えた ありがとう／やさしいね 言えてよかった／もうやらないでほしいな／ぼんたがよろこんでくれてよかった／こんきちもわかってくれてよかった なんだよ／じゃまするな 言えない なんで助けてくれないの？／ぼんた嫌い／もう学校イヤ ごめんね／なんで言えなかったのだろう／ぼんたどうなったかな？／言えない自分がいやだな 俺は強いな／俺様が一番だ／おもしろいな／ ☆こんなことを続けていると、こんきちはどうなりますか？	15分	・できた時とできなかったときを比較することで、正しいことを選んで行うことの気持ちよさ、すがすがしさに気づけるようにする。 ・ペアで話し合い、互に書くことによって、考えを可視化し、積極的に発表できるようにする。 ・登場人物の気持ちになりきれるように、ぼんたとぼんたのどちらか一方の気持ちを考える。 ・それぞれの登場人物の気持ちを表情マークで記すことで、よりことを知ることも、みんなの中の気持ちに気付くことに気付けるようにする。 ・ぼんただけでなく、ぼんたにやこんきちのきもちも考えることで、より多面的に心情を捉え、正しいことが行えたときの気持ちよさに気付けるようにする。【こんきちは最後に教師を導で求める。【価値理解】
みんながニコニコ笑顔、いい気持ちになれる ○もし、ぼんたのような場面に出くわしたら、みんなは「やめろよ」ということができますか。	10分	・授業の初めの心情メーターの横に、同様に心情メーターを記すことで、変容の変容を検証できるようにする。
5．本時の学習でわかったことをノートにまとめる。 ○正しいことができたときとできなかったときを比較してわかったことはどんなことですか？ ○「学校生活で、自分はどのようなことができるかですか？	5分	・ワークシートの書き始めを「正しいことができたときは」とすることで、考えを書きやすくする。 ・早くかけた子には、本題の学校生活でどのようなことができそうか考えるように働ず。

R2.6.5～9（14:30～15:30）全教職員

＜研修③＞　ＯＪＴ研修「心肺蘇生法」（３回に分けて実施）

キャリア段階	【Ｉ】基礎的・基本的な指導力
ねらい	◆救命処置の手順について習得および再確認することによって、学校生活における子どもの事故に対する的確な処置が行えるようにする。
概要	◆講師：中澤 紀子　養護教諭、坂上 桂一　教諭【養護教諭、体育主任】 ①ＤＶＤ視聴（救命処置の手順） ②心肺蘇生練習用模型を用いた実技練習
成果	○年に１回の研修を行うことによって、救命処置の分かっているつもりの部分を、各々で確認し、再認識することができた。 ○実際に救急要請や心肺蘇生のシミュレーションをしたり、ＡＥＤの設置箇所を確認できたりしたことは、実際の学校現場においての「もしも…。」に対応できる知識と意識をもつことができた。
課題	△救命処置の基礎を確認したが、どのような場所や時間であっても対応ができるように、様々な状況を教員一人一人が想定して、本研修を振り返る必要がある。 △校内救急体制についても、いざというときにしっかり機能するように確認しておく必要がある。
取組の様子	**◆救急要請や心肺蘇生法の仕方に関するＤＶＤの視聴** **◆模型を使いながら、胸骨圧迫やＡＥＤの使い方を練習**

R2.6.19（15:00～16:00）14名

＜研修④＞　メンター研修「子どもとの関わり方」

キャリア段階	【Ⅰ】児童生徒理解
ねらい	◆子どもとの信頼関係を気付くための方法について考え、自分の行動を見つめ直す。
概要	◆講師：村田 久美　教諭【メンター研修リーダー】 ①子どもとの関わり方についての講義 ②子どもとの関わり方についての話合い（学年ブロックごと）
成果	○メンティーへの事前調査を行うことで、より具体的な場面、より具体的な方法について話し合うことができ、メンティーの悩みにより近い話合いができた。 ○学年ブロックに分かれて話し合うことによって、学年により子どもとの関わり方に違いがあることが明確に見えた。 ○話合いを行ったことにより、主体的に参加する場面がもてた。 ○話合いの際に、各ブロックにメンター（コーディネーター、アドバイザー）を配置したことによって、経験をもとにした、より深い話合いができた。
課題	△今回話しあったことは机上の空論である可能性もある。実際の児童を目の前にしたとき、臨機応変に対応できるように、今後もチームでの対応や相談を大切にし、実際の現場での関わり方を肌で学んでいってもらいたい。
取組の様子	**◆ブロックごとの話合い** **◆話合い後の意見共有** **◆子どもとよりよく関わりたいという、メンティーの思いが寄せ集まった研修**

R2.7.16（16:15～17:00）25名

＜研修⑤＞　ＯＪＴ研修「ＳＯＳの出し方教育」

キャリア段階	【Ｉ】基礎的・基本的な指導力
ねらい	◆ＳＯＳの出し方教育が推進される背景にある現状を知るとともに、ＳＯＳ教育の実践の仕方について学ぶ。
概要	◆講師：丸岡 芳　教諭【教育相談上級資格保有教員】 ①ＳＯＳの出し方教育に至った経緯 ②ＳＯＳの出し方教育の進め方
成果	○先進的な取組を行っている足立区をモデルとした実際に行った学活「ＳＯＳの出し方教育」の方法を紹介しての研修は、イメージしやすくわかりやすかった。 ○若手教員から「メッセージを出さない子の方が危険であることを知った。」「自傷行為の置換スキルを知ることができた。」等、様々な知識を得ることができたという感想が多く、実りのある研修となった。
課題	△命に係わるような内容で、子どもたちへの精神的な負担も大きい。発達年齢に応じた授業内容の吟味が必要である。 △年一回の授業実践を推進していくために、年間計画への位置づけを行っていく必要がある。
取組の様子	**◆子どもの命に係わる丸岡教諭の実体験に基づいた話に、真剣に耳を傾ける。** **◆実際の授業を想定した体験型研修**　**◆パンプレットの配布時期を考える**

R2.7.22（16:00～16:50）7名

＜研修⑥＞　ＯＪＴ研修「所見の書き方」

キャリア段階	【Ｉ】基礎的・基本的な指導力
ねらい	◆児童、保護者にとってよりよい所見の書き方について考える。
概要	◆講師：懸川 寿美子　教諭【初任研拠点校指導員】 ①所見の書き方において大切なこと（講話） ②よりよい所見の書き方（実践）
成果	○本研修は教職経験３年目以内の職員を対象とし、実践を中心に研修を行った。 ○ペア活動では、相手の意見を参考に自主的に活動しており、初めて所見を書く教員にとっても、積極的な研修となった。 ○昨年度と異なる職員が講師となったことで、２年目以降の職員にとっても昨年度と違った内容を聴くことができ、参考になった。
課題	△講義では「所見を読むと誰の所見か、わかるように書く。」といった説明があったが、いざ実践してみると意外と難しかった。 △日頃から、一人一人の行動をよく観察し、記録を蓄積していくことが大切である。
取組の様子	**◆実践①：各自がくじ引きで選んだドラえもんの登場人物についての所見を作成し、誰の所見かを考えた。** **◆実践②：参加者がペアになり、所見の例文を添削した。**

R2.7.31（13:30～15:00）15名

＜研修⑦＞　メンター研修「地域資源の活用」

キャリア段階	【Ⅰ】保護者や地域と連携する力
ねらい	◆地域人材や地域施設の活用の在り方について考え、よりよい教育を実践する力を養う。
概要	◆講師：田野入 康裕　教諭【コミュニティ・スクール・コーディネーター】 村田 久美　教諭【メンター研修リーダー】 ①地域人材の活用について（本校のコミュニティ・スクール構想について） ②地域施設の活用について（館林の文化と関連施設の活用について）
成果	○コミュニティ・スクール・コーディネーターの活用により、より正確で詳しい本校の実践についての講話を聴くことができた。 ○館林の観光案内パンプレットの活用により、歴史、自然、食等、様々な面から館林を探ることができ、地域学習のための館林探索の間口を広げることができた。
課題	△コミュニティ・スクールについては、モデル校２年目である。今回の説明にとどまらず、実践の成果についても目を向け、今後のコミュニティ・スクールの活動について積極的に関わっていく姿勢をもつことが必要である。 △今回の実践は、館林が誇る日本遺産「里沼」をテーマに行ったが、やはり机上での実践ではイメージがつかみきれなかった。現地に出向いて、調べて、実際に体験して、教育に生かせる館林の地域資源をつかみ取ってもらいたいと考える。
取組の様子	**◆「里沼」をテーマに、小麦文化・館林の伝説・豊かな自然・歴史上の人物など、様々な学習内容が提案され、地域学習の利点について考える機会をもつことができた。**

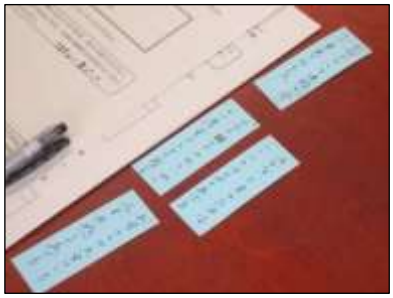
R2.8.19（9:30～10:30）21名

＜研修⑧＞　ＯＪＴ研修「アレルギー児童への対応」

キャリア段階	【Ｉ】基礎的・基本的な指導力
ねらい	◆アレルギーに関する基礎知識及び対応の仕方について知る。
概要	◆講師：中澤 紀子　養護教諭【養護教諭】 ①アレルギー児童への対応について ②エピペン実習
成果	○アレルギーの対応の仕方についてのＤＶＤの視聴を行った。年に１回の研修であるが、何回見ても、毎回気付くことがあり、再確認の場となっている。 ○本校のアレルギー児童への対応の共通理解の場となった。
課題	△本研修は、児童の命に係わる重要な研修である。本研修での内容を、この場限りの知識でなく、実際の現場で対応できることが重要である。 △アレルギー児童への対応だけでなく、その場に居合わせた他の児童も含めて、冷静な対応ができるよう、全職員がイメージしておかなければならない。 △本校にも、アレルギー児童が在籍している。担任以外の職員にも、該当児童の対応の仕方について共通理解を図るとともに、自習等の際には、確実な伝達を行うようにしていかなければならない。
取組の様子	**◆講話から、Ｐ．Ｐを用いた分かりやすい説明があった。** **◆エピペンの使い方について、練習用のエピペンを用いて確認。** **研修熱心な十小職員、実際の場面を想定してやってみました。** **実際にやってみると、** **…「あれっ？？こんな時は？？」新たな疑問も見えてきました。**

R2.9.3（16:00～16:50）17名

＜研修⑨＞　メンター研修「不適応児童への対応の仕方」

キャリア段階	【Ｉ】児童生徒理解
ねらい	◆学級経営を行う中で生じている不適応児童への適切な対応の仕方について考える。
概要	◆講師：中村　　ＳＣ【スクールカウンセラー】 　　小野寺 薫　教諭【教育相談主任】 ①不適応児童への対応の仕方（話し合い・講話）
成果	○メンティーが実際の学級で抱えている不適応児童の例を取り上げながら話し合い、より具体的な対応策について、活発に議論することができた。 ○メンターを話合いに加えることにより、今までの自分の経験を元にした話合いが行われ、より深みのある話し合い活動となった。 ○研修終了後も個人的に相談したり、アドバイスしたりする様子が見られ、学ぼうとする意識、伝えようとする意識が芽生えた研修であった。
課題	△どのメンティーの学級にも、不登校や教室での不適応、友達とのトラブル等を起こしている児童がいる。 △児童について、日頃から情報交換を行い共通理解を図っているが、対応となると担任への負担が大きい。 △今回の研修で、多くの職員から対応策についてのアドバイスがあった。今後は、若手がＳＯＳを発信しやすい環境づくりを今以上に心がける必要がある。 △不適応児童に対して、学年として、学校として対応できる組織作りについて考えていかなければならない。
取組の様子	**◆ＳＣの勤務日の放課後を使って、話合い→発表→講話の流れで研修を行った。研修後も教室のあちらこちらで、相談や情報交換が行われた。** 

R2.11.27（16:00～16:50）12 名

＜研修⑩＞　メンター研修「全国学力・学習状況調査を生かした授業づくり」

キャリア段階	【Ⅰ】基礎的・基本的な指導力
ねらい	◆全国学力・学習状況調査の問題を分析することによって、算数の授業における有効的な指導法について考え、指導力の向上を図る。
概要	◆講師：髙橋 正明　教諭【学力向上コーディネーター】 ①全国学力･学習状況調査の問題を解き、どのような問題の傾向があるか確認する。 ②問題の傾向から、子どもたちに有効的な算数の指導の在り方について話し合う。
成果	○例年、6 学年担当のみが関わる問題に、目を通す機会をもつことができたことが、まず大きな成果である。 ○「子どもたちに必要な力はどんな力か？」「その力を身につけさせるためには、どのような学習活動を展開していくべきか？」などについて話し合うことによって、今までの指導法を振り返るとともに、今後の指導法を考える機会をもつことができた。
課題	△本研修で考えたことを実際に実践していくことが大切である。 △日々忙しい業務だが、メンティー一人一人が研修で考えたことを実践に移していけるよう呼びかけていく必要がある。 △一人一授業等を通して実践したことを、共有する場面を、今後のメンター研修等で設けていきたいと考える。
取組の様子	**◆忙しい業務の中、メンティーに限らず、多くの教員が意欲的に参加した。** **◆実際に問題を解いてみると、問題の傾向から「子どもたちに求められる力」が見えてきた。後半は、「その力を身につけさせるための有効的な指導法」を書き出した。各班のたくさんの考えについて、話合いも活気あるものとなった。**

R2.12.24（13:30～14:30）22 名

＜研修⑪＞　ＯＪＴ研修「プログラミング」

キャリア段階	【Ｉ】基礎的・基本的な指導力
ねらい	◆新学習指導要領への移行によって必修化された「プログラミング教育」に必要なプログラミングの基礎を体験し、指導に必要な力を習得する。
概要	◆講師：長谷川 尚生　教諭【情報主任】 ①プログラミング学習ができるソフトウェアの紹介。 ②「micro:bit」「プログル」「Scratch」の体験
成果	○研修を希望する人数も多く、多くの教員が求めていた研修内容であった。 ○専門性も高く、自己研修ではなかなか取り組みにくいものであり、貴重な経験の場となった。
課題	△本研修では、プログラミングに関するソフトを知るまでの研修であった。今後は、プログラミング教育の指導法について研修する機会を設けたり、５、６年の実際の授業を参観したりして、指導力向上を図っていく必要がある。 △コンピューターを用いないでできる「プログラミング的思考を育成するための教育」についても、検討をしていく機会を設けていきたい。
取組の様子	**◆プログラミングが体験できる Web サイト「Hour of Code」を閲覧したり、「プログル」「Scratch」「micro:bit」を体験したりした。** **◆初めての人も多く、試行錯誤の繰り返しだった。若手の教職員が力を発揮した。** **◆学力向上を目指した取組の一環として、プログラミングに関する通信を子どもたちにも発信した。** ～学びの風～ Hour of Code （アワー オブ コード）

R3.2.4（15:50～16:30）11名

＜研修⑫＞　ＯＪＴ研修「要録の書き方」

キャリア段階	【Ｉ】基礎的・基本的な指導力
ねらい	◆年度末の円滑な事務作業のため、要録の書き方や注意点の確認をする。
概要	◆講師：島田 加代子　教諭【教務主任】 ①要録の書き方の説明 ②質疑応答および要録作成用 PC データの共有
成果	○若手の教員のみが集まり行った研修のため、些細なことでも質問しやすい雰囲気であり、質問が具体的な内容であった。 ○忙しくなりがちな学年末の作業のため、ミスのないように計画的に早めに作業を行うよう呼びかけることができた。
課題	△若手のため、PC の活用に長けた教員が多い。PC 作業が中心となる要録作成作業であるので、研修を受けた教員が、他の教員に PC 操作について援助に入ることができると、研修の意義がさらに深まるものとなる。
取組の様子	**◆省略**

R3.2.22（16:05～16:50）11名

＜研修⑬＞　メンター研修「新しい教育相談」

キャリア段階	【Ⅰ】基礎的・基本的な指導力
ねらい	◆ヤングケアラーやLGBTなど、近年話題として取り上げられるようになった社会問題をふまえた、「新しい教育相談」について考える。
概要	◆講師：髙橋 正明　教諭【教育相談上級資格保有者】 ①ヤングケアラーについての説明。 ②LGBTに関する教育相談実習
成果	○最近の社会問題として注目される「ヤングケアラー」や「LGBT」を研修の内容に取り上げることで、受講者の研修に対する興味・関心がとても強かった。 ○このような内容を踏まえた教育相談について考えることは、初任者の教育相談に対する研修意欲を高めることにつながり、研修に対して真剣かつ意欲的に向き合う姿が多く見られた。 ○実際の教育現場での教育相談の大切さや、難しさを再認識することができた。また、髙橋教諭にとっては、教育相談指導者養成側として、自分の研修してきた内容を他の教員に伝えることができた貴重な場となった。
課題	△問題を抱える児童や保護者のそれぞれの気持ちに寄り添った教育相談を行うことは大変難しいことである。 △本研修の実習のみで解決するものではない。また、教育相談には様々な知識と経験が必要となってくる。若手の教員だけでなく、すべての教員が、このような社会問題や教育相談に対して関心をもち、学年や学校全体で協力して、教育相談に取り組んでいく必要がある。
取組の様子	**◆教育相談指導者養成研修を踏まえての研修を、教育相談上級資格を保有する教員が講師となり行った。** **◆「先生、私は男のトイレに行きたいです。」「先生、ぼくは男の子と一緒だと恥ずかしくて着替えられません。」「先生、ぼくっておかしいですか？」など、実際に起こりうるような状況を想定し、ロールプレイなども行った。**

R3.3.1（16:05～16:50）12名

＜研修⑭＞　メンター研修「実践報告会」

キャリア段階	【Ⅰ】自己の課題を把握する力
ねらい	◆一年間の自分の活動を振り返るとともに、他の若手の教員の実践を聞くことで、来年度に向けてのビジョンをもつことができるようにする。
概要	◆講師：村田 久美　教諭【コアティーチャー】 ①本年度の自己実践に対する成果と課題発表
成果	○和やかな雰囲気での報告会となるよう、今までとは異なり座談形式での研修を試みた。 ○報告の際には司会進行も設けず、自由な形式で意見を出し合うことにより、肩肘張らず気軽に意見交換をすることができた。
課題	△今日の報告のために、原稿を用意した職員もいた。また、全員の発表には多くの時間が必要となり、予定の研修時間を大きく超過してしまった。 △研修に臨む職員にとって、可能な限り職務の妨げにならないことや負担をかけないことなど、効率のよい研修を行うことが今後の課題である。
取組の様子	**◆今回は話し合いがしやすいよう、座談形式での研修を試みた。** **◆コーディネーターやアドバイザーの職員が参加し、時には笑いも起こるなど、アットホームな雰囲気で、にぎやかな報告会となった。** **◆他の教員の発表に真剣に耳を傾けメモをとる姿もあった。**

十小 コア通信

TRY

館林市立第十小学校
R2.5.1（金）
No,1

メンター研修チーム発足！！

臨時休業が始まってから、早一ヶ月が経ちました。皆さんいかがお過ごしでしょうか？

このような事態は、おそらく誰もが初めてのことで、毎日の業務にあれこれと悩み、工夫を凝らしながら職務を進めていることと思います。職員室で皆さんの様子を眺めていると、やはり、第十小学校の職員室は明るく、楽しく、真面目で･･･本当にすてきだなぁと感じる光景をたくさん目にします。今年度も、この雰囲気を大切にしつつ、全職員で資質向上研修を行い、教員としての資質を磨いていける一年にしていきたいと思います。

本年度の研修のモットー

★居心地のよい職員室（質問・相談をしやすい雰囲気、共通理解の図れる風通しのよい雰囲気）にしよう。
★若手も中堅もベテランも、皆がチャレンジ精神と向上心をもち続けよう。

メンター研修チーム分け（順不同）

メンティー			メンター	コーディネーター（兼メンター）	アドバイザー（兼メンター）	
低学年	中学年	高学年				
青木	賀谷	川戸	渡辺寛	島田	荒井	懸川
久木原	髙橋綾	小泉	小野寺	村田	高瀬	早坂
内藤	丸山	竹田	坂上	長谷川	青木秀	川上
			塚田	高橋正	渡邉教	田野入
			西村		廣木	鑓田
			柿沼		中澤	（教頭）
					丸岡	（校長）
					谷口	

十小全職員が、one team となって、頑張りましょう！

我々の意識と技術の向上が、子どもたちの向上につながることを信じて･･･

今年度は上記のようにチーム分けをさせていただきました。

若手教員の悩みや課題を解決するため、それぞれがそれぞれの立場で考え、みんなで意見を出し合い、実践していく中で、資質・能力を高めていきましょう。

5 月 11 日より、ABC 班による分散勤務が始まります。まずは、A、B、C 班がそれぞれの研修のチームです。臨時休業により、なかなか全職員で研修する機会がもてませんが、学年の枠を超えて、共に勤務する者同士で意見を交わし、悩みや不安を打ち明けながら、仕事を進めていきましょう。

今年度は、

①メンター研修（メンティーから悩みや課題を吸い上げ、メンターを中心としたチームで共働で学ぶ）
②OJT 研修
③学年職員やコアティーチャーによる授業の参観、意見交流会　等を行っていく予定です。

実りのある一年にするためにも、アンケートをお願いしたり、研修の依頼をしたり･･･そんなときにはご協力よろしくお願いします。また、ご意見等ありましたら、いつでも気軽に声をかけてください。

ベテランを真似てみる…中堅から吸収する…そして若手から学ぶ…
実りのある一年になるよう全職員で頑張りましょう。

十小 コア通信

TRY

館林市立第十小学校
R2.5.8（金）
No,2

分散勤務
在宅勤務

先日メンティーの皆さんにアンケートをとらせていただきました。その中の一つとして「在宅勤務がうまく進まない。」という意見がありました。我々も、在宅勤務を始めてしばらくたちますが、公私共通の環境で、なかなか仕事がうまく進まないなんていう日もあるのではないかと思います。経験の少ないメンティーの皆さんならなおさらのことと思います。そこで、皆さんの意見を集結させて、学校が再開した時によりよいスタートが切れるよう、アンケートへのご協力をお願いします。また、いよいよ来週から始まる分散勤務の中でも、そのようなことを話題にしながら、3 日に 1 回の勤務を有効に活用できるようにしましょう。

氏名（　　）

★「学校再開に備えて、休業中にやっておくとよいこと、やっておくべきこと。」

今までの経験から、各分掌から･･･さまざまな視点からアドバイスがいただけるとよいと思います。書ける欄のみで結構です。ご協力よろしくお願いします。

1 学年	
2 学年	
3 学年	
4 学年	
5 学年	
6 学年	
その他	

分散勤務のため、提出日までの勤務日が少なくなり申し訳ありませんが、14 日（木）までに、村田の後ろの封筒に入れてください。ご協力よろしくお願いします。

十小 コア通信

TRY

館林市立第十小学校
R2.5.18（月）
No,3

学校再開に向けて…

先日はお忙しい中、校内研修アンケートにご協力いただきありがとうございました。皆さんのおかげで、たくさんの貴重な意見が集結しました。アンケートの結果につきましては、今後の校内研修の参考にさせていただきたいと思います。在宅勤務も残り 2 週間です。一人で考えていると、気が滅入りそうな在宅勤務ですが、皆さんからいただいた貴重な意見を参考に、若手の先生方も、6 月からの学校再開に向けて、有意義な時間を過ごしてください。十小職員、OneTeam となって、コロナに負けず頑張りましょう。

学校再開に向けてぜひやっておこう！！

～たくさんの先生方の、豊富な知識と様々な経験から、いろいろな意見をいただきました～

全体に関わること

- 教材研究
  - ☆板書計画と児童用ノートにノート作り
  - ☆ピアノの練習、読譜
  - ☆一年間の授業構想を見通す。
  - ☆とりあえず１学期分の見通しを持つ
    （単元計画、ワークシート、教材作り等）
  - ☆図工教材の試作
  - ☆道徳授業作りシート、場面絵・ワークシート作成
- 評価の仕方の確認（今年度から変わりました！！）
  - ☆参考国立教育政策研究所から出ている資料等
- はばプラⅡを読み込む（今年度の校内研修のテーマです）
- 宿題から、児童の実態把握
- 個別の指導計画作成（学校再開してしばらくすると提出になります）
- 後ほどやらなければならなくなる事務仕事
- 文科省 HP（学校保健、学校安全、学校給食等）、保健教育関係 HP を見ておく
- 本を読んで、ネタを探す
- NHK for School の一気見！！
- スタディサプリの活用の仕方
- ICT 活用について
- 教材室の片付け＆備品チェック
- 算数コーナー掲示物等の教室環境づくり

低学年

- 生活…各教室や先生の写真をパワーポイントにまとめておく

高学年

- ソーラン節（はっぴ文字）
- 総合のプリント印刷（6 年生）
  たくさんあるらしいです…。

子と共に 重い気持ちで 在宅し
終わらぬ課題に 悩む毎日☹

そして、何よりも…学校が再開したときには、健康な心と体で、子どもたちを出迎えられるようにしましょう。

十小 コア通信

TRY

館林市立第十小学校
R2.6.2（火）
No,4

OJT 研修①
個別の指導計画

５月 27 日（水）準備登校日の前日という忙しい日程でしたが、今年度初めての OJT 研修「個別の指導計画の書き方」が行われました。せっかく作成する個別の指導計画だからこそ、作って終わりではなく、効果的に活用できるものを作成しようという柿沼教諭の強い思いが、ひしひしと伝わってくるパワフルな研修でした。

個別の指導計画の作成に当たっては、より具体的な目標と支援を考えること、こまめに計画の振り返り、見直しを行っていくことによって、特別な支援を要する児童にとってより効果的な支援が与えられることを学びました。柿沼教諭のパワフルな研修に、参加者の多くが引き込まれ、有意義な時間を過ごすことができました。

いよいよ学校再開です。まずは、実態把握！！若手の皆さん、研修で得たことをもとに子どもと向き合っていきましょう。

【一年間の流れ】

５月中	昨年度の個別の指導計画に目を通し、意識をもった上で児童を観察
６月末まで	実態把握、プロフィール・ねらい・目標・手立て・支援を記入
夏季休業中	ケース会議
10 月～11 月	中間まとめ、目標・手立て等の見直し
年度末	一年間のまとめ、次年度への引継ぎ

～書き始めて悩んだら、遠慮なく、学年の先生や前担任、特別支援のプロに相談してみましょう。～

メンター顔合わせ、無事終了！！

同日、「個別の指導計画」の研修終了後、メンター研修のメンバーの顔合わせが行われました。今年度は総勢 13 名です。年間６回を目標に、若手の先生方のニーズに合わせて研修内容を決め、行っていきたいと考えています。授業でも必要とされている「対話」を通して、お互いに課題を相談・共有・助言し合いながら、指導力を向上させると共に互いの関係性を深め、相談しやすい雰囲気も作っていけたらと思っております。

今後も、皆さんのニーズに応えられるような OJT 研修、メンター研修を企画していきたいと思います。中堅の先生方、講師としてお願いに伺うこともありますが、快く引き受けていただけると助かります。ベテランの先生方、多くの経験の中からたくさんのアドバイスをいただけると嬉しいです。お忙しい業務の中ですが、ぜひ積極的に研修に参加し、自己を高めていきましょう。

次回の研修

６月５日（金）、昨年度の校内研修テーマ、道徳科「授業づくりシートの活用を通して」の研修を行います。今年度十小に来られた先生方を中心に、昨年度の研修内容をお話ししたいと考えています。

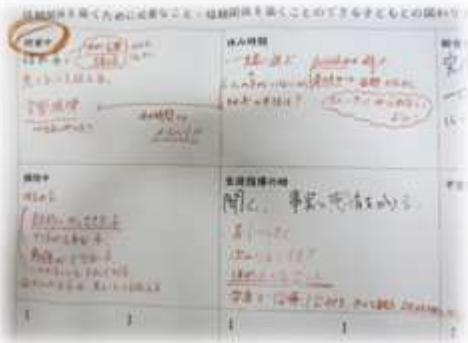
十小 コア通信

TRY

館林市立第十小学校
R2.7.7（火）
No,5

メンター研修②
子どもとの関わり方

学校再開１ヶ月、子どもたちの笑顔と笑い声が飛び交う校舎はやはり気持ちがいいものです。各学級とも、学級づくり、そして毎日の授業と慌ただしい生活が送られている中、６月１９日（金）、第２回メンター研修「子どもとの関わり方」が行われました。若手の皆さんの悩みをくみ上げ、それに基づいて子どもとの関わり方について考えました。また、メンター研修アドバイザーの廣木教諭、コーディネーターの髙橋正教諭、長谷川尚教諭も加わり、経験を元にした奥深い話も聞くことができました。若手の皆さんにとって子どもとの関わり方について学び、再確認する機会が持てたのではないかと思います。



限られた時間の中で、活発に話し合い、共有し合い、深め合うことができました。

研修後の感想より…

○（略）…「褒めて、のばす」を意識しなければと思っていたが、しつけを意識するあまり、今現在では注意の方が多くなってしまっている。指導の判断基準をもう一度見直し、マイナスの言葉をプラスに変えていくことができるよう自分自身の意識を変えていきたい。学校は楽しいところにしてあげたいというのが自分自身の思いである。しかし、「成長がなければ学校の意味がない。」という言葉を受け止めてもう一度考えてみた。重い言葉だと思うと同時に、そのとおりだと思った。…（略）

○（略）…今日は「信頼関係を築くためにできること」を様々な場面で考えました。低学年は、基本が褒めることであったのですが、高学年の意見では「褒められないとできない子が育つ」というものがありました。褒めすぎもよくないということを感じました。低学年を指導して行く上で、今後褒めの程度を学んでいきたいと思います。…（略）

○（略）…休み時間は（一定の児童とのコミュニケーションしか取れないため）あえて教室にいない、などの方法を実践している先生もいて、なるほどと思いました。わたしは休み時間も学級にいて毎日同じようなメンバーと会話をしてしまうので、今後この方法を参考にしてみたいです。…（略）

ラスト１ヶ月、いよいよまとめの月です。

子どもたちの生活面、学習面をしっかり見取り、的確な評価へと結び付けましょう。

十小 コア通信

TRY

館林市立第十小学校
R2.8.20（木）
No,6

メンター研修③ 地域資源の活用の仕方

新型コロナウイルスの感染、拡大防止の影響で各学校に委ねられた初任者研修「地域資源の活用」、せっかくの機会を有効に活用し、初任者だけでなく若手の先生方にも学んでもらおうと、7月31日にメンター研修を行いました。メンター以外の多くの先生方に参加していただき、充実した研修となりました。

地域資源その１…地域人材の活用

田野入 コミュニティ・スクールコーディネーターを講師にお招きし、昨年度から行われている本校のコミュニティ・スクールの構想についてお話ししていただきました。学校生活の裏側には、たくさんの地域の方々の支えがあることを知りました。今後のコミュニティ・スクール活動への関心を高め、積極的に関わるきっかけをつくっていただきました。

地域資源その２…地域施設の活用

「館林と言えば…？？」たぬき、つつじ、館林うどん…。様々な名物がありますが、今回は日本遺産となった「里沼」をテーマに研修を行いました。それぞれの沼をテーマに、どのような学習が考えられるかを話し合い、共有し合いました。里沼を調べてみると、館林の文化の特徴である「小麦文化」やつつじが岡公園をはじめとする「行楽文化」、館林城築城にともなう「城下町の文化」など、全てが３つの沼に関わることを発見しました。館林市外の先生方はもちろん、市内に住んでいる先生方も、館林の地域施設のすばらしさを再確認する場となったのではないかと思います。

公民館も駅も工業団地も…特別な施設でなくても、身近な施設すべてが地域学習の教材です。地域ボランティアの盛んな第十小学校だからこそ、地域人材と地域施設を大いに活用して、充実した地域学習を行っていきましょう。館林を見て、聞いて、体験して、館林を学んで、生かして、伝えられるようになる。そして、館林を知って、好きになって、自慢できるようになる！！そんな子どもたちが育つといいなと思います。

先生方も、地域資源を生かした地域学習について、ぜひ考えてみてください。

十小 コア通信

TRY

館林市立第十小学校
R2.11.26（木）
No,7

**主体的
対話的で
深い学び**

中期指導主事訪問も終わり、２学期も残すところ残り１ヶ月となりました。指導主事訪問では本年度の研修テーマ「自分の考えをもち、対話を通して深く学ぶことができる児童の育成」について話し合い、「主体的・対話的で深い学び」とは何かについて考えました。これからは研修後半戦、一人一実践を行っていく中で「自分の考えをもたせるためにどのような工夫ができるのか？」「深い学びにつなげるために、どのような対話的な場面の工夫ができるのか？」を考え、新学習指導要領に基づいて、「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものなのかを追究していけるとよいのではないかと思います。毎授業の中で、考えのもたせ方、対話のもち方を意識しながら、十小としての新しい授業スタイルを確立していけるよう、今後も研修に励んでいきましょう。

主体的・対話的で深い学びの実現

（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる**「主体的な学び」**が実現できているか。

【例】
- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする

主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に生かそうとする**学びに向かう力・人間性**等の涵養

生きて働く**知識・技能**の習得

未知の状況にも対応できる**思考力・判断力・表現力**等の育成

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める**「対話的な学び」**が実現できているか。

【例】
- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広める
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る

【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう**「深い学び」**が実現できているか。

【例】
- 事象の中から自ら問いを見いだし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく

～新しい学習指導要領の考え方（文部科学省）より～

忙しい毎日ですが、数多くの先生方の一実践を参観し、子どもたちが興味や疑問を抱き、「やってやろうじゃないか。」と思える主体的な授業、「関わり合い、学び合い、高め合える」対話的な授業、様々な知識がつながり子どもたちが「わかった。おもしろい！～～～はどうなのだろう？」と、自らの思いや考えを基に創造していけるような深い学びの授業を考えていきましょう。

「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師力とは・・・

①子どもの姿や発言を丁寧に見る（捉える）
②子どもの思いや考えを理解する（解釈する）
③本時のねらいとの関係を考える（照合する）
④どのように振る舞うかを決める（判断する）
⑤分かりやすく板書したり、端的に発問したりする（振る舞う）

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて　より～
（https://www.nits.go.jp/materials/intramural/files/025_001.pdf）

令和２年５月２７日（水）

ＯＪＴ研修　報告書・所感

「個別の支援計画・指導計画」の書き方について

講師：柿沼 香織　教諭

１　学んだこと

（１）「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の違い

「個別の教育支援計画」は、児童生徒一人一人の障害（特質）に応じて、在学中のみならず乳幼児期から学校卒業後までを見通した視点を持って作成される。教育、医療、保健、福祉、労働等の関係機関が連携・協力して支援するためのツール（道具）となるものである。

「個別の指導計画」は、児童生徒一人一人の障害（特質）の状態等に応じたきめ細やかな指導が行えるよう、児童生徒の教育的ニーズに応じて１年間の見通した目標や手立て・支援等を具体的に表したものである。

（２）「個別の指導計画」作成にあたって

児童生徒の実態把握がとても大切である。担任を中心に一人一人の特質をしっかりと捉え作成しなければならない。子どもが抱えている悩みや困り感に寄り添い具体的な手立て・支援を講じていくことで、子ども一人一人が生きやすい環境、学級をつくることができると考える。

また、「個別の指導計画」は道具である。それ自体が目的とならないようにしなければならない。障害の特質という視点のみで判断せずに、その子の特質に応じた支援をしたことにより、その子がどのように変容して、これからどのような成長ができるだろうかという視点をもつために道具として活用していかなければならない。

２　これから生かしたいこと

〔Ａ教諭〕

柿沼先生をはじめ、素晴らしいスキルをもった先生がたくさんいらっしゃるので、連携して児童を支援していきたい。今回の講義を受けて、自分がやるべきことが少し明確になった。「この子が、こうしてしまった原因は何か」「未然に防ぐための手立てはなんだろうか」「学級に還元できることはあるか」等、いろいろな視点をもって学級経営に取り組みたい。

「個別の指導計画」では、失敗した手立て・支援を消さずに情報を蓄積し、失敗を糧にたくさんのスキルを身につけていきたい。１０人に１０通りではなく、１人に１０通りの支援ができるようになりたい。PCDA サイクルのもと、たくさんの先生と情報を共有し、指導力向上につなげたい。

〔Ｂ教諭〕

今日の柿沼先生の研修を受けて、昨年まで個別の指導計画を作成していたので、新たな視点を教えていただきました。

どうしてもきれいな言葉で書きがちであった内容もより数値や動作、どんな場面でなどがあると分かりやすく支援のゴールに近づけるように、子どもにとっても担任にとっても、みんなにとって幸せなものになると思いました。

光や風も影響することを再確認できました。

今年は、専科という立場で色々な子どもと接するので、先生方と情報を共有しながら、子どもと接していきたいと思いました。

〔Ｃ教諭〕

第１回資質向上研修で学んだことは、２つある。

１つ目は、目標を明確にすることの大切さである。目標が明確になれば、そのための手立ては自

然と見えてくる。だからこそ、目標とする具体的な姿を教員が持つことが大切だと学んだ。当たり障りのない定型文の目標ではなく、自分の思いをのせた具体的な姿を思い浮かべ、今年度の個別の指導計画を作成していきたい。

２つ目は、実態把握の大切さである。先ほど、目標をより具体的にと述べたが、そのためには実態を細かくみとることが重要になってくる。何ができて、何ができていないのか、教室だけでなく、体育館や廊下など様々な場面で見とることで、実態把握をしていきたい。また、日々メモをとる習慣をつけることで、実態把握をより深いものにしていきたい。

これから様々な資質向上研修があるが、すべてに参加し、目の前の子供の成長のために、自分自身の教師としての力を高めていきたい。

〔Ｄ教諭〕

個別の指導計画は書いたことがあるので、なんとなくわかっているつもりであったが、今回の研修で、今までなんとなくだった部分が、はっきりと理解できた。去年一昨年と、前担任のものを見ながら、似たようなものを書いているだけであったが、その子が今年どういう姿を目指すのか、という観点で書いていくということを知り、きちんと実態を把握し、その子にとっての学びとは何かを考えていく必要があると感じた。

また、今までは、「この子がこうなってしまったら、どうするか」という部分を考えていたが、そうではなく、「この子がこうならないために、どうアプローチしていくか」ということが大切であるということがわかった。個別の指導計画が必要である子もない子も、望ましくない行動が起こってしまう前に、その原因にアプローチできるよう、心がけていきたい。

今後もたくさんのことを吸収できるように、がんばります。よろしくお願いいたします。

〔Ｅ教諭〕

本日の「個別の指導計画」に関する講義に出席しての所感を以下に箇条書きで送らせて頂きます。

・個別の指導計画とは何か、どのように書けば良いのか基礎から学ぶことができた。
・一斉指導をしながら、個々の実態把握をどのようにすればいいのか様々な手立てを教えて頂いた。
・支援を要する児童をどのように見守り、指導していけばよいのか学ぶことができた。(字を書くのが苦手な児童が、書き始めたときはどんな姿勢で書いていても指導せず見守るなど)
・個別の支援を要する児童に関すること以外にも、教室整備のポイント（黒板周りはシンプルになど）や座席の配慮などたくさんのことを学ぶことができた。

本日学習したことを、学校再開後に生かしていきたいと思います。

〔Ｆ教諭〕

本日開催された個別の指導計画の研修会について、「学んだこと」と「工夫したいこと」をまとめましたので、お時間あるときに確認をお願いいたします。

まず学んだことは、指導計画についての知識です。数十分の研修でしたが、私は知らないことが多く、たくさんの知識を増やすことができました。具体的には、親に開示の義務がないことや、どんな小さなことでも今後のヒントになるかもしれないこと（それはメモ書きでもよいこと）、加筆は赤文字で足し、修正は線を引いて消すことなど、基礎的なことですが知らなかったので勉強になりました。また、今回の内容とは関係ないですが、掲示物等についてのお話もして頂き、ぜひ今後参考にしていきたいと思いました。

次に工夫したいことは、より詳細な内容を記載することです。私は十小での任用が７月末までのため、それ以降は後続の先生に引き継ぐことになります。その際、抽象的な内容の指導計画であると差異が生じる可能性があるため、より詳細に、どんな小さなことでも書き込んでいくことを意識していきたいです。

令和２年６月５日（金）

ＯＪＴ研修　所感

「道徳授業づくりシート」の活用について

講師：村田 久美　教諭

＜　所　感　＞

〔Ａ教諭〕

学年の仕事として、漠然と道徳授業作りシートの記入を任されていたのですが、書き方や授業の作り方が理解できた時間でした。今まで漠然と道徳の指導の仕方を教わっていたのですが、自分の道徳に対する姿勢の低さを感じました。道徳の授業で重要視するところ、教材の使い方、評価の仕方など詳しいことが分かり、今後の授業ではクラスの実態と価値項目から教材の活用を考えることを自分への課題として展開を考えていきたいと思います。

今年は、教科書が去年と変更になり、見方もよく分かっていなかったので今後道徳の授業を進めていく上でとても参考になりました。

特に「多面的、多角的に取り入れる」という言葉を分かりやすくかみ砕いていて、どのような発問を取り入れていくべきか考える手がかりになりました。今後、行き詰まったら今回の研修のパワーポイントを参考に授業を考えていきたいと思います。

また、村田先生の道徳に対する授業の熱意や丁寧さを感じ、自分の授業の未熟さを改めて感じました。様々な点を参考にさせていただきたいと思います。

研修の機会を設けていただき、ありがとうございました。

〔Ｂ教諭〕

教員１年目でまだ道徳の授業をしたことが無く、あまり授業作りのイメージが湧いていなかったのですが、授業作りシートの作成方法や留意点などを詳しく教えて頂いたことで授業準備をするイメージが湧いてきました。

発問・展開・終末それぞれにおいて工夫の仕方や注意するポイントなどを理解することができました。

導入はコンパクトに問題意識を持たせる工夫を、展開では児童の対話などを中心に進めていくこと、終末では今後の学校生活に活かせるような授業の終わり方をするなど、授業において大切なことを教えて頂きました。

教員として道徳教育の技量を多く身につけられるように努力することはもちろん、十小の道徳授業作りについてたくさん勉強していきます。

本日学んだことを実際に授業作りをしていく際に、活かしていきたいと思います。

〔Ｃ教諭〕

道徳研修で学んだことは、道徳性の諸様相を育てることが道徳科の目標であるということだ。昨年度、授業を作る際には道徳科の目標まで意識して作ることができていなかった。だからこれからは、人間理解、他社理解、価値理解の３つを意識して授業に組み込みながら、最終的には、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるための授業

を考えて実践していきたい。そのために、子どものどういった姿が道徳性の諸様相が育った状態と言えるのか、ゴールイメージを自分の中で持てるようにしたい。

〔Ｄ教諭〕

改めて道徳の評価の方法や授業中、授業後、毎時間どんな方法で個人の変化を見取ればよいかとても参考になりました。授業だけで無く普段の生活・授業の中で取り組むことの大切さを感じました。

その場面、場面で道徳の大切さ、指導をしていきたいと思います。

簡単ですが振り返りとさせていただきます。

〔Ｅ教諭〕

いつもお世話になっております。５日（金）に開催された校内道徳研修を受けて、「学んだこと」と「工夫したいこと」をまとめましたので、お時間あるときに確認をお願い致します。

まず、学んだことは、授業の作り方です。私は今まで道徳の授業を作る際（教育実習等)、教材文を読み、その教材では何を教えるのかを確認して授業を作っていました。しかし今回の研修を受け、そうではなく、価値項目と児童の実態から教材をどう活用するか考えて授業を作る、ということを学びました。これから道徳の授業を行うときには児童の実態を踏まえて教材をうまく活用していきたいです。

次に、工夫したいことは、導入部分です。児童の興味関心を引いて４５分間の学びをより良いものにするために、導入部分はかなり重要な箇所だと考えています。考える必要性、考える意欲を持たせるために、教材研究をしっかりしていきたいです。パワーポイントにあった『子どもたちの「うん！うん！！」を重ねてから、本当の発問に入る』という工夫は今までしたことがなかったので、そんな方法もあるんだ、と勉強になりました。これから取り入れていきたいです。

令和２年６月１９日（金）

ＯＪＴ研修　所感

子どもとの関わり方について

講師：村田 久美　教諭

＜　所　感　＞

〔Ａ教諭〕

私自身、「怒らない指導の仕方を勉強する」というテーマで研修に臨ませて頂きました。研修前半では、村田先生から教師としての在り方や、教師はどうあるべきなのかなど教えて頂き、子供にうまく寄り添うことの大切さを学ぶことができました。後半のグループ討議では、様々な場面で児童と信頼関係を築くにはどういった方法があるのかを話し合い、先輩方からたくさんの方法を教えて頂きました。特に、何事も口先だけで注意・指示するのではなく、自分自身が先頭に立ち、率先して手本となることが大切だと言うことを再確認し、今日から意識して行動していきたいと思いました。また、他のグループの意見を伺った際には、休み時間は丸付けや自分の仕事をするのではなく、子供と遊んだり関わったりすることで子供の普段とは違った側面を発見できたり、友達関係の把握をしたり、信頼関係を構築できたりするという話を聞き、休み時間は時間を作り一緒に遊びたいと思いました。

このほかにも、児童との信頼関係の築き方をたくさん教えて頂いたので、本日から実践していきたいです。また、「怒る・注意する」以外の方法でうまく指導していきたいです。

〔Ｂ教諭〕

今回のメンター研修の大きなテーマは、信頼関係だった。話し合いの中で出たキーワードは「褒める」だった。去年は４年生を担当しており、ある程度基礎ができていた。そのため、叱ることよりも褒めることができていた。しかし、今年は１年生。１から基礎をつくらなければならない。「褒めて、のばす」を意識しなければと思っていたが、しつけを意識するあまり、今現在では注意の方が多くなってしまっている。叱る判断基準をもういちど見直し、マイナスの言葉をプラスに変えていくことができるよう自分自身の意識を変えていきたい。

また、もう１つの大きなテーマが「良い教師・学校とは？」だった。学校は楽しいところにしてあげたいというのが自分自身の思いである。しかし、「成長がなければ学校の意味がない。」という村田先生の言葉を受け止めてもういちど考えてみた。重い言葉だと思うと同時に、その通りだと思った。成長させるまでの自分自身の力量のなさを痛感すると共に、やはり勉強して教員としての力を付けていきたいと再確認した。

〔Ｃ教諭〕

６月１９日のメンター研修では、日々の指導についてもう一度考え直すことができました。去年勤務していた小学校では、児童との距離が近いことが自分の中で課題としてあげられました。そのため今年は、教員と児童との線引きをしっかりした教員になるこ

とを目標に日々を過ごしていました。

今年は今のところ、線引きの効果があるのか分かりませんが、２－４の教室では児童はとても素直です。ただ、そのほかの場所ではどうなのか。学校だけになっていないか。ということを考えると、こどもが成長する良い学級にはなっていないと感じました。良い学級にするため、児童に寄り添う機会をもう少し増やそうと思います。

また、今日は「信頼関係を築くために出来ること」を様々な場面で考えました。低学年は、基本が褒めることであったのですが、高学年の意見では「褒められないと出来ない子が育つ」というものがありました。褒めすぎもよくないということを感じました。低学年を指導して行く上で、今後褒めの程度を学んでいきたいと思います。

村田先生が、「怒るところを最初に伝える。」ということを言っていました。それによって児童は、やってはいけないことを最初に理解することができ、その後意識すると思います。是非、取り入れていきたいと感じました。

最後に、休み時間の使い方について、今週の土日でよく考えたいと思います。貴重なお時間ありがとうございました。

〔Ｄ教諭〕

子どもと信頼関係を築く上で、場面を分けて考えることができ、学年によって、少しずつ変化することも感じました。

掃除を３学期まで教員が一緒にしているようでは負けだと感じると髙橋先生がおっしゃっていました。組織作り、リーダーの育成、勉強していきたいと思いました。

最後に、他のブロックの考えもお聞きすることができ、とても参考になりました。まとまりませんが振り返りとさせていただきます。貴重な研修、ありがとうございました。

〔Ｅ教諭〕

学んだことは、児童との関わり方です。私は児童と関わる上で、「教師ー児童」の関係ではなく、「友達―友達」のような関係になってしまうことに悩んでいました。しかし今回の研修を受けて、確かに関係の在り方は大切だけど、「友達―友達」のような関係であることを武器するべきだと教えていただきました。児童にとって話しやすい先生でいることで児童も本音で話してくれるだろうと教えていただき、今後はそれも意識して話しやすい先生でいることを大切にしたいと思いました。

今後工夫したいことも、児童との関わり方です。今回の研修を受けて、児童との関わ方について十小の先生方が実践しているいろいろな方法を学びました。例えば休み時間は児童との距離をより近くするけれど、授業中は敬語を徹底する、などの方法が挙がりました。わたしは比較的授業中にため口で話しかけられても気にしないことが多かったので、それは意識していきたいと思いました。また、休み時間は（一定の児童とのコミュニケーションしか取れないため）あえて教室にいない、などの方法を実践している先生もいて、なるほどな、と思いました。わたしは休み時間も学級へいて毎日同じようなメンバーと会話をしてしまうので、今後この方法を参考にしてみたいです。

令和２年７月１６日（木）

ＯＪＴ研修　所感

「ＳＯＳの出し方教育」について

講師：丸岡 芳　教諭

＜　所　感　＞

〔Ａ教諭〕

今回の資質向上研修のテーマは「ＳＯＳの出し方教育」についてだった。研修を通して、子どもにＳＯＳを出していいということを伝えることの重要性や、教職員だけでなく、子ども（友達）がよきゲートキーパーになる必要性。そして、自分自身や友達を大切にするということを学んだ。

教職員がよきゲートキーパーになるためには、教職員自身が心の余裕を持ち、児童の細かな変化に気付くことが大切だと感じた。そのためにも、自分自身のワークライフバランスを心がけ、本当に必要な業務か見極め、「無理・無駄」を切り捨て、効率よく仕事を行うことで業務改善を図っていきたいと考えた。

〔Ｂ教諭〕

いつもお世話になっております。先日の校内研修「ＳＯＳの出し方教育」についての感想（学んだこと、活かしたいこと）です。遅くなってしまい申し訳ありません。お時間あるときに確認をお願いします。

まず学んだことは、ＳＯＳを出さずに踏み越えてしまう児童は意外と普通の子が多い、ということです。私は今まで「死にたい」「疲れた」と口に出して言えるような、特徴のある児童ばかり気にかけてしまっていたので、少し怖くなりました。ＳＯＳを出せずにいる児童も必ずいるので、そのような子がＳＯＳを出しやすくなるような教育をしていきたいと、研修後考えるようになりました。

次に今後に活かしたいことは、いのちの電話等の番号が書かれた紙を配布するタイミングです。私が小学生だったころ、恥ずかしながらその紙を意識したことがなく、家に帰ったらすぐに捨ててしまうこともありました。それもあり教員になった今も「渡されたし配らなきゃな」くらいの意識でした。しかしそれを配る必要性やそのタイミングがあることを今回の研修を通して学びました。今回丸岡先生が行っていた授業を参考にして、ぜひ自分も行いたいと強く感じました。

〔Ｃ教諭〕

自殺だけではなく、つらいな、嫌だなどと思ったことをどう吐き出すのか、その方法を教えていくことの大切さを感じました。

また、日頃から顔の表情や、ふとした変化に気づいて声をかけていきたいと改めて思いました。よいゲートキーパーになっていきたいと思います。

〔Ｄ教諭〕

私は「SOS の出し方教育について」という題名を見たとき、正直内容が全く想像出来ませんでした。漠然と研修を受けに行ってしまったことについて、自分の未熟さを感じました。

研修内容で一番驚いたことは､児童は SOS を出していいことを知らないという点です。原因を考えたときに、児童一人一人に対して熱心に話を聞く人が不足しているのではないか、と思いました。普段の学校生活を考えたときに、児童一人一人に声をかけて話を聞いている時間は､ほとんどないことに気付きました｡資質向上研修での言葉を使うと、いわゆる「普通の子」への対応を今後考え、行動していく必要があると思いました。

また、いじめをされている人に対してはもちろん、いじめをしてしまっている人に対しても気持ちや考えを訴えさせるように促す力が今後必要になってくると思います。今は小学校に勤務しておりますが、中学校や小学校高学年の担任になったとき、どう児童から気持ちや考えを引き出すのか、勉強が必要だと思いました。さらに、その思春期の自傷行為をしてしまう児童生徒に対して、氷を握りしめることがおすすめと知ることができてよかったと思いました。

今回の資質向上研修で、児童の自殺をより身近に感じるようになりました。そして、児童の自殺予防について知識を蓄え、対応していく力を身につけたいと新たな目標が出来ました。たくさんの知識や対応力を身につけている先生が多くいる十小にいる間に、多くのことを学んでいけたらなと思います。

令和２年７月２２日（水）

ＯＪＴ研修　所感

「所見の書き方」について

講師：懸川 寿美子　教諭

＜　所　感　＞

〔Ａ教諭〕

今回の研修で、表記の仕方や、書く心得などがまだまだ頭に入りきっていないと感じました。「子供」の表記の仕方や、「良い」は、「よい」と書くことなど気をつけることを絞ることができたので、今後に活かしていきたいと思います。

また、所見の例文添削の際、具体性が欠けた文章に添削ができていなかったので、自分の所見にも具体性が欠けているのだろうと感じました。漠然と、「よい」ではなく、具体的にどのような授業で、どのような活動で、どのような単元で、「よい」ところが見られたのか、詳しく表現していきたいと思います。

毎回研修で学ぶことが多くあり、自分の未熟さを感じます。それと同時に、まだまだ学ぶことがある楽しさも感じます。研修の重みを感じ、少しでも多くのことを吸収していきたいと思います。

〔Ｂ教諭〕

いつもお世話になっております。先日行われた「通知表の所見」研修の感想です。お時間あるときに確認をお願いします。

今回の研修を受けて学んだことは、所見の表現の仕方についてです。言葉の使い方（面白い→×、おもしろい→〇）や、内容（テストの点数に関してはあまり書かない）について、知らなかったり驚いたりすることがたくさんありました。今回学んだことは担任を持った際、ぜひ参考にしたいと思いました。

また、今後に活かしていきたいことは、記録をよく取っておくことです。所見を書くに当たってより詳細に書くために、日々どんなことをしているのか具体的にメモを取っておくことが重要だと感じました。今学期は授業中忙しくてなかなか時間が取れずあまりメモが取れなかったので、今後は意識して記録をしたいです。

令和２年１１月２７日（金）

メンター研修　所感

全国学力・学習状況調査を生かした授業づくり

講師：髙橋 正明　教諭

＜　所　感　＞

〔Ａ教諭〕

研修で児童に身に付けさせるべき力がよく分かった。普段の授業でも取り入れたいが、具体的な声かけや授業の仕方がよく分からない。ぜひ、ベテランの先生方のミニ授業や若手のミニ授業を参観して、授業の仕方を学びたい。

〔Ｂ教諭〕

理由や方法の説明は意図的に取り入れるようにしているが、言葉だけでなく文章で説明する力も大切だと感じた。できるところから授業に取り入れたい。

〔Ｃ教諭〕

とても勉強になった。ありがとうございました。日本語学級においても「口に出す」⇒「文意する」という練習をしているので、今日教えていただいた観点を頭に置いて、児童に投げかけていきたいと思う。

〔Ｄ教諭〕

児童が知識を習得することを目標として授業をやってしまっていることに気付いた。今後は考え方を重視した授業を展開したいと思う。図、式、言葉のやり方が気になる。

〔Ｅ教諭〕

意図的に自分の考え方を言うだけでなく、文章で書く必要性を感じた。問いかけの言葉などの引き出しを増やしていきたい。ありがとうございました。

〔Ｆ教諭〕

事実・方法・理由について、子どもにどのように、何を問うのか。教師の意識改革が大切であると感じた。

〔Ｇ教諭〕

普段の授業がいかに適当なのか実感した。今後「板書の改善」をテーマに授業を改善していきたい。問いかけ「なぜ？」なども工夫していきたい。

〔Ｈ教諭〕

若手ではないが､先生方の考えを聞いて､改めて算数の教材研究に力を入れたいと感じた。ぜひ、ベテランの先生を含めた全体研修をしていただき、授業力アップを図りたい。

〔Ｉ教諭〕

思考力・判断力・表現力を身に付けさせたい授業と知識・技能を身に付けさせたい授業のバランスが大切だと感じた。学力が低位な児童に対して、思考力・判断力・表現力を問う授業はできるのか疑問に思った。

令和３年２月２２日（月）

メンター研修　所感

新しい教育相談

講師：髙橋 正明　教諭

＜　所　感　＞

〔Ａ教諭〕

主に、ヤングケアラーと LGBT について学びました。

ヤングケアラーの意味を聞かれたとき想像すらつきませんでしたが、ヤングケアラーについての説明を聞くと、前任校で年度末にヤングケアラーの有無を確認したことを思い出しました。ヤングケアラーという言葉こそ使われてませんでしたが、弟や妹の面倒を必要以上に見ている、見させられている兄や姉がいないか、確認してほしいと言われました。このことから、最近の言葉というわけではなく、ただ単に自分の知識不足だと反省しました。また、自分が担任している学年は低学年で、割合的にはそこまで多くないことが分かりましたが、そのような視点も持ちながら児童に接する必要があると感じました。

LGBT についてのお話では、どう対応したらいいか戸惑う質問がたくさんありました。ペアワークや髙橋先生の話から、どのような質問が来てもまずは親身になって話を聞き、児童生徒を傷つけないように配慮するよう、心がけることが大切だと感じました。

私のクラスには、登校しぶりの児童がいます。児童との対応の仕方や、保護者対応などが合っているのか悩む毎日ですが、親身になって話を聞き、傷つけないように関わることを心がけていこうと思いました。

今回の研修で一番心に残った言葉は、「沖に向かわせない」という言葉です。解説を聞いて、登校しぶりの児童に大きな負担に感じるような課題を与えているかもしれない、思いました。今後は、スモールステップで、一歩ずつ小さなことから取り組むよう促していこうと思います。

〔Ｂ教諭〕

髙橋先生からのお話の中で、「ヤングケアラー」「LGBT」がありました。ヤングケアラーという言葉を初めて聞きました。現代には、家庭の事情で子ども自身が親や兄弟のケアをしなくてはいけない状況があることを心にとめて置きたいと改めて感じました。

また、LGBT についてもいつ自分の身の回りに配慮が必要な子がいるかもしれないという視点を忘れずにしたいと思いました。

上記のことは、学年や管理職、関係機関などさまざまな方と情報を共有することの大切さも感じました。

貴重な機会になりました。ありがとうございました。

資質向上研修アンケート結果

１　教科指導において、研修したい教科について（複数回答可）

◆教科全般において

○「めあて」の立て方、「振り返り」の仕方
○単元を見通した課題の立て方、単位時間のめあての立て方
○対話を通して学ぶ工夫
○評価について

教科	人数	具体的な研修内容
国語	１３	「書く」指導、「読み取り」の指導、「作文」の指導 論理を教える授業、単元の作り方
算数	１２	「長さ」「重さ」「かさ」の指導、ノート作り、交流のさせ方、具体物のさせ方、日常の社会事象との関わりを持たせた授業のあり方、導入の上手な進め方、ICT を活用した授業
体育	9	できるようにする指導法（鉄棒、マットなど）、安全に行うための工夫 楽しくできるウォーミングアップ・準備運動、表現の指導法、体づくりの運動の指導法、思考の評価の見取り方、
道徳	8	「めあて」と「振り返り」の工夫、話合い活動の仕方、構造的な板書の仕方
社会	5	「のびゆく館林」の活用の仕方
理科	4	実験の進め方、準備、まとめ方、実験講習
図工	4	鑑賞の具体的な見取り方（評価）、絵の具・版画の指導法
学活	4	学級や学校における生活づくりへの参画、一人一人のキャリア形成と自己実現
音楽	2	大まかな流れや評価、学活の中で歌を取り入れる工夫
生活	2	家庭科　1　総合　1　英語　0

２　教科指導以外において、研修したい内容について（複数回答可）

研修内容	人数	具体的な研修内容
ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ教育	１４	授業に導入されたプログラミング教育の実践
ICT 活用	１０	教育機器を利用した授業づくり、P.C を取り入れた研修
特別支援	8	発達障害児への具体的な対応、外国籍児童への学習支援
新教育課程の評価	7	
教育相談	3	
生徒指導	3	生徒指導の実践例
アレルギー対応	1	PWP を使った説明、DVD 視聴、エピペントレーナー使用体験
その他		学びのユニバーサルデザイン（十小スタンダード） 命を大切にする教育（自殺防止） メンター研修（接遇と個人情報の管理）